

第 25 回 日本血液学会北陸地方会 プログラム

当番会長 羽 場 利 博

期 日 平成19年 7 月14日(土) 午後 2 時より

会 場 石川県立中央病院健康教育館
(金沢市鞍月東 2 丁目 1 番地 TEL 076-237-8211)

○一般演題は 1 題 7 分、質疑応答 3 分です。パソコン発表で行います。下記の 2 通りの方法から選んで下さい。

- 1 事務局のパソコン：事務局よりウィンドウズ (WindowsXP, PowerPoint2003) のパソコンを用意します。発表用データを CD-R または USB 接続対応フラッシュメモリで用意して下さい。事務局のパソコンへの取り込みは、13時～13時45分の間に行います。時間厳守でお願いします。
- 2 各施設のノートパソコンの持ち込み：プロジェクタ接続ケーブルは、HD (3WAY) 15pin オスまでを事務局で用意します。これよりパソコン側のケーブルが必要なときは各施設で用意して下さい (特にマックは注意!)。データの動作確認を済ませ、発表の30分前までに用意して下さい。発表時のパソコン操作は各施設でお願いします (発表者はパソコンの操作ができません。不測の事態に備えパソコン操作に詳しい方にお願いします。)

7 月12日木曜日までに 1 または 2 のいずれの方法で発表するかを事務局までお知らせ下さい (hokuriku@med3.m.kanazawa-u.ac.jp)。

発表データファイルのファイル名は、演題番号・所属・演者がわかるように簡潔に付けて下さい。(例：5 金沢大血内奥村)

14:00 開会の辞 福井県立病院内科 羽場利博

14:05 座長 福井赤十字病院血液内科 今村信先生

- 1: ATOによるAPL分化症候群で限局性の肺浸潤影を示した一例(53歳男性)
石川県立中央病院 血液免疫内科 村田 了一、小谷 岳春、山口 正木、
上田 幹夫

症例は53歳男性。1986年にAPLを発症し、2007年1月に発熱と出血傾向で再発した。JALSG APL205Rで治療を開始した。ATOによるAPL分化症候群を生じたが、肺浸潤が片側に限局するなど非典型的な経過を示し診断に苦慮した。

- 2: 人間ドックで悪性リンパ腫を発見できるか
N T T西日本北陸健康管理センター 北尾 武、野上 裕子、東山 雅代
N T T西日本金沢病院内科 佐賀 務

昨年度の新規がん登録数では悪性リンパ腫は胃、大腸に次いで3位になっている。4例の患者でどのような経路で診断されたかを分析し、人間ドック・検診で早期診断が出来ないかを示唆していただきたい。

- 3: L-asparaginase投与後重篤な高脂血症をきたし血漿交換療法で改善した
Precursor T-cell lymphoblastic leukemia(21歳男性)
金沢医科大学 血液免疫制御学 岩男 悠、福島 俊洋、中村 拓路、
池田 祥子、高原 豊、中島 章夫、
三木美由貴、坂井 知之、澤木 俊興、
田中 真生、正木 康史、廣瀬 優子、
梅原 久範
同 腎機能治療学 木村 庄吾、中川 卓、横山 仁
同 内分泌代謝制御学 中川 淳

Daunorubicin, vincristine, prednisoloneによる化学療法開始13日目に寛解、day 20よりL-asparaginase 10,000単位/日を隔日投与したところday 27に総コレステロール 456、中性脂肪 4799、day 29にはそれぞれ684、9226まで上昇、血漿交換を3回施行し正常化した。報告は少ないが、成人においてもL-asparaginaseによる高脂血症に対し嚴重な注意が必要と考えられた。

- 4: 高齢者の RAEB に対する同種造血幹細胞移植 1 年後に認めたアデノウイルスによる出血性膀胱炎(69歳男性)
黒部市民病院 内科 高松 秀行、山内 博正

68歳の RAEB の男性に骨髓非破壊的前処置後に HLA 一致の弟より末梢血造血幹細胞移植を施行。1 年後にアデノウイルスによる出血性膀胱炎を併発。有効とされているシドフォビルは日本では未発売。経過からはビダラビンが奏効した。

- 5: 腹腔内の巨大のう胞を呈した POEMS 症候群(50歳男性)
富山大学 第三内科 嶋 香菜子、三原 弘、宮崎 孝子、
宮園 卓宜、村上 純、工藤 俊彦、
杉山 敏郎
同 輸血・細胞治療部 江幡 和美、安村 敏
同 神経内科 高嶋修太郎
同 第2内科 高田麻衣子
同 第1病理 高野 康雄

50歳、男性。13年前に腰椎の骨髓腫と診断。3年前に肺高血圧、POEMS 症候群と診断され、ステロイド治療を受けていた。腸閉塞を疑われ入院したが肺炎を合併し永眠された。剖検では腹腔内に巨大嚢胞を認めた。POEMS 症候群のまれな合併症と思われる。

- 6: 巨脾と白血球増多を認めた一例(55歳女性)
福井大学 第一内科 田居 克規、浦崎 芳正、岸 慎治、
吉田 明、上田 孝典

初診時末梢血では WBC 14万 (リンパ球95%), Hb 9.9, Plt 31.8万。リンパ節腫脹(-)、巨脾、CD19(+), CD20(+), CD5(-), CD23(+), SmIgM(+)で、骨髓像では前リンパ球様の形態を持った腫瘍性増殖を認め、PLL と SLVL で鑑別診断が困難であった。HBV carrier のため rituximab, prednisolone は使用せず、CHO 療法 3 コース施行した。巨脾の縮小を認めたが、今後の治療方針につき討論を希望する。

- 7: 胃悪性リンパ腫に対する化学療法+放射線療法後に発症した出血性胃炎の2例
富山県立中央病院 内科 矢野 正明、尾崎 淳、彼谷 裕康、
黒川 敏郎、吉田 喬

胃悪性リンパ腫に対する R-CHOP 療法+放射線療法後に出血性胃炎を発症した85歳男性、73歳女性の2例を経験した。放射線によるものと考えており、比較的まれと思われるので報告する。

15:15 座 長

富山県立中央病院内科

彼 谷 裕 康 先生

- 8：臍帯血移植後に辺縁系脳炎を発症した急性混合性白血病の一例(52歳女性)
金沢大学医学部附属病院 血液内科 青木 剛、山崎 宏人、前川 実生、
望月果奈子、高松 博幸、近藤 恭夫、
奥村 廣和、中尾 眞二
同 輸血部 高見 昭良

急性混合性白血病の移植後再発例に対し臍帯血移植を施行。移植後18日目より異常言動、せん妄が出現し、MRI 所見から辺縁系脳炎と診断。臍帯血移植後に合併する辺縁系脳炎の早期診断・治療について討論を希望。

- 9：同種ミニ移植が有効であった Angioimmunoblastic T-cell lymphoma (AILT) の1例(60歳男性)
NTT 西日本金沢病院 内科 中条 達也、澤崎 愛子、山下 剛史、
清木 ゆう

強力な化学療法と連続した自家末梢血幹細胞移植後にも約10ヶ月の不完全な寛解しか維持できなかった60歳男性の AILT に、自家移植+同種ミニ移植を施行して現在のところ2年の完全寛解を維持している。

- 10：中枢神経浸潤が疑われ、Bortezomib が有効であった多発性骨髄腫の65歳女性
福井県立病院 血液内科 森永 浩次、羽場 利博

多発性骨髄腫の中枢神経浸潤に対して Bortezomib が有効である可能性が示唆され、著明な血球減少と PS4の症例であったが良好な経過を認めた。

- 11：多彩な合併症を認め、CHOP が奏功した成人T細胞白血病リンパ腫(53歳男性)
市立砺波総合病院 血液内科 又野 禎也
同 内科 佐藤 重彦、杉本 立甫
同 臨床病理科 寺畑信太郎

リンパ節腫大で発症、その後急激な意識障害を来した成人T細胞白血病リンパ腫症例。通常の化学療法では奏功しにくいと言われながら、本例では CHOP が奏功した。北陸では症例が少ないため、今回当院の症例を提示する。

15:55 総 会

16:05 教 育 講 演

司会 福井県立病院内科 羽 場 利 博

「造血幹細胞移植における組織適合性～免疫遺伝学の新たな課題」
京都大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 一 戸 辰 夫

17:05 閉 会 の 辞

福井県立病院内科 羽 場 利 博